

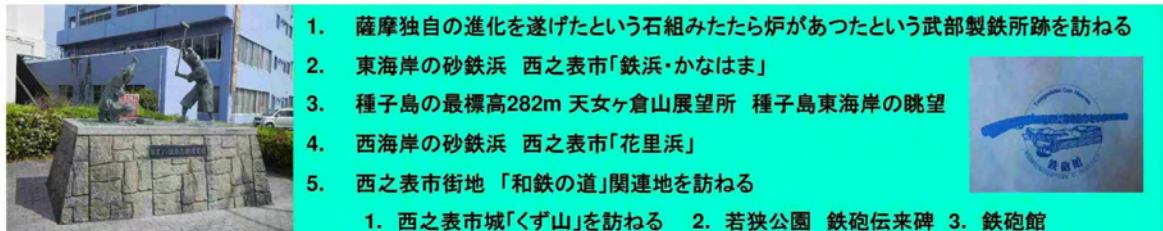
7.

砂鉄浜・たららの島「種子島」和鉄の道探訪 2013.4.16.



「砂鉄浜」・「たたらの島」種子島を訪ねました 2013.4.16.

種子島は南北52km東西12kmで北北東から南南西に細長く延び、最高標高が約282mしかない平坦な島で、隣に位置する屋久島とは対照的な島。そして、大量に砂鉄が堆積する砂鉄浜が島のいたるところで見られると聞く。その代表格が 西之表市の東海岸「鉄浜・かなはま」



《種子島の概要》「鐵砲伝来・宇宙開発前線基地」そして「砂鉄浜の島・たたらの島」

- 種子島は南北52km東西12kmで北北東から南南西に細長く延び、最高標高が約282mしかない平坦な島。
隣に位置する屋久島とは対照的。島の周囲には数段の海岸段丘が発達。東岸は岩礁が多く、西岸は砂浜海岸。
そして、島のいたるところの砂浜で大量に砂鉄が堆積する砂鉄浜が見られるといふ。
- 西之表市と熊毛郡中種子町・南種子町からなり、気候は温暖で亜熱帯植物が繁茂する。
- 鎌倉時代から江戸時代末期まで種子島氏が支配。
- 1543年(天文(てんぶん)12)南端の門倉(かどくら)崎にポルトガル人が乗った明船が漂着、日本に初めて鐵砲が伝來した。
- サトウキビ・葉タバコ・サツマイモなどの畑作と醡農が盛ん。
- 1969年(昭和44)南東部の種子町茎永(きくなが)に種子島宇宙センターが設置され、日本の宇宙開発の最前線基地
- 種子島をインターネットにある幾つかの資料・観光案内などで調べていてピックリしたのですが、
種子島では「砂鉄の島」というよりも「たたらの島」の思いが強い。

そんなに種子島でたら製鉄が発展したとは見えないのですが***

鉄砲伝来に継ぐ国産化を成し遂げた種子島。そのバックには弥生時代以来伝承され、高度に磨き上げられた製鉄・鍛冶技術があったからだといふ。薩摩が重要な鉄の産地になったのは江戸時代以降と思うのですが、高チタン砂鉄の使用を可能とする「石組みたら」の技術は古代まで溯源のだろうか****

種子島といえば一般的には「鐵砲伝来の地で、最近では種子島宇宙センターが設置され、日本の宇宙開発の最前線基地」といつかと通り相場である。
司馬遼太郎、街道を行く、南蛮の道に記述され、島の海岸部の砂浜いたるところに砂鉄が堆積する「砂鉄の島」でもある。今までに訪れた砂鉄浜の最南端が薩摩半島の開聞岳の山裾海岸に広がる川尻浜なので、一度は是非訪れてみたかった「砂鉄の島」である。

「鉄浜」と書いて「かなはま」と読むそんな砂鉄浜がある。

また、薩摩半島には知賀を中心とした江戸期薩摩独特の発展を遂げ、薩摩に豊富に存在する高チタン含有の砂鉄を使った島津藩洋式高炉展開のベース技術となった石組みたら炉がある。
そんな石組みたら炉が種子島にも1ヶ所(武部)プロットされている。そこへも訪れてみたい。

屋久島からその日中に帰らねばならぬのが、種子島へ立寄って鹿児島から帰るルートを調べると、種子島に滞在時間約4時間程度は取れる。

島の南端にある鉄砲伝来の地門倉岬や宇宙センターへ行かないことにすれば、十分 製鉄遺跡関連地を周れる。案内ちらOK。

時間に余裕がないので、前もってレンタカーを予約して、西之表周辺の砂鉄浜に石組みたら炉があった武部の集落、そして西之表市の鉄砲館が訪れられれば十分だと計画が決まる。



たらの島 種子島 種子島の人たちの鉄に対する思い

種子島の鉄 概要

西之表市home page <http://www.city.nishinoomote.lg.jp/histry/tatara.html> より

「《弥生時代の集骨再葬墓 広田遺跡から 多数の人骨、土器片、貝製品出土》特に「山」の字を彫った貝符は鉄工具による精巧な技術の存在を思わせ、同じく出土した鉄製品や、種子島をとりまく海浜の今なお存在する莫大な砂鉄の埋蔵は古くからこの島と鉄との強い結びつきを示し、古来からの製鉄・鍛冶技術の伝承が鉄砲伝来・鉄砲国産化をこの種子島が成し遂げる素地になっているのではないか……」と種子島の人たちの鉄に対する思いが西之表市のホームページに記載されている。



1955年(昭和30年)秋、たまたま、22号台風によって削られた広田(南種子町)の浜ノ山から、人骨、土器片、貝製品が多数発見された。特に、「山」の字を彫った貝符をはじめとして出土した貝製品のおびただしさは驚くべきもので、このとして学会の注目を集めめた。

さてこの遺跡からは、鉄製品が2本出土した。ほかにも上能野(西之表市住吉)の弥生期の貝塚からも1本出土しており、種子島にはすでに製鉄技術があったことが推定されている。

また、広田遺跡の副葬品の貝符に彫られたトウテツ文様は、それぞれ刻線の鋭い緻密なもので、これを彫るには、やはり鉄製の刃物を用いたであろうと想像され、鉄器の使用は、かなり多岐、広範にわたっていたのではないかと思われる。

すなわち、種子島では、はやくから鉄の技術が存在していたことは、種子島をとりまく海浜に、今なお莫大な砂鉄が埋蔵されていること、さらに、全島を蔽うていたに相違ない照葉樹林を考えると、しごく当然のことと思われる。

種子島では、昔は製鉄にかかわる一斉の作業を「たら」と呼称した。
おそらく砂鉄の選鉱に、わずかに傾斜し樋状の用水路を使用したと思われ、いつしかその用水路も「たら」と呼ばれるようになった。この水路を利用する選鉱は後、かんな流しに変わり、大正時代まで続いた。

こうした製鉄・鍛冶の古い歴史をもつ種子島に、1543年、鉄砲が伝來した。この鉄砲を模作し、国産化した鍛冶は、八板金兵衛清定を惣鍛冶とする鍛冶集団であった。

この八板金兵衛の系図には、興味深い部分がある。その系図の冒頭に「濃州、閑の鍛冶、刀剣を善くし産業の為に来る」とある。

この時代は、各地方の豪族や小名が、事あればかしと乱を狙い乱を起こし、互いにせめぎあった。それらが、敵の戦力をそぐに使った戦術は、鉄や塩のルートを絶つことであった。

鉄なしには鍛冶はなりたたない。原料なしには閑も空名である。

その鉄の产地として、閑の鍛冶・八板金兵衛が種子島をめざし移住したというのは、鉄の島としての種子島が、国内に広く知られていたということにほかならない。また、そのことが、鉄砲国産化を成功させた要因でもあった。



国産第1号火縄銃を製造した八板金兵衛の銅像

種子島は「鉄・たらの島」 島のいたるところの浜に砂鉄が堆積する

【砂鉄が堆積する種子島の海岸砂丘】



西之表市 鉄浜・かなはま海岸

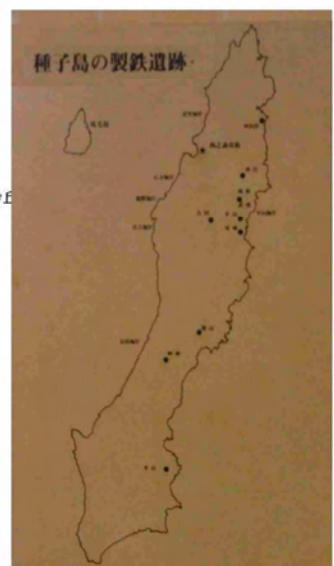


西之表市 花里海岸

種子島 砂鉄が堆積する砂丘・砂層と製鉄遺跡分布



■ 砂丘
■ 砂層 洪積世
(中種子層)



0 10km

1. 種子島 西之表市現和 武部製鉄所跡を訪ねる

現和の製鉄所は西之表から東へ約8km離れた現和武部に所在し、湊川・浅川に挟まれた低地部分に位置し、製鉄所跡を取り囲むように小川が流れている。そして この水流を使って水車による製鉄を行ったともいわれている。

周辺には縄文時代以降の遺跡が数多く分布し、古代から近世まで住み続けられた場所で、そんな場所にあった製鉄所跡である。

この武部製鉄所跡では

- 小型の竪型製鉄炉3基と製錬炉1基の4基の炉跡
- 炉から流れ出た製鉄・製錬鉄滓の集積2ヶ所
- 木炭や鉄滓を含む多量の礫集積地
- 2条の溝跡

が隣接しあって まとまって見つかり、

そこから、約10m離れた川岸に近い場所からは、

- 明治時代の製鉄炉とおもわれる石組?レンガ壁を有する大型製鉄炉の遺構が出土。(薩摩独自で展開された石組たら)
- さらに小型製鉄炉群が見つかった場所の奥 川岸に隣接した畑地からは既に製鉄所跡の痕跡は消失しているものの

- 4つのトレーナーで鉄滓や鉄製品が出土。

この場所にも製鉄関連遺構があつたと見られている。

この製鉄所跡の年代を検討できる遺構・遺物は出土せず、この遺跡の年代を特定できていないが、この武部製鉄所跡では「1713年琉球から技師を招き、水車による製鉄を行い、幕末まで操業し、その後 明治に再興されたが、3年間で終わった」との記録がある。

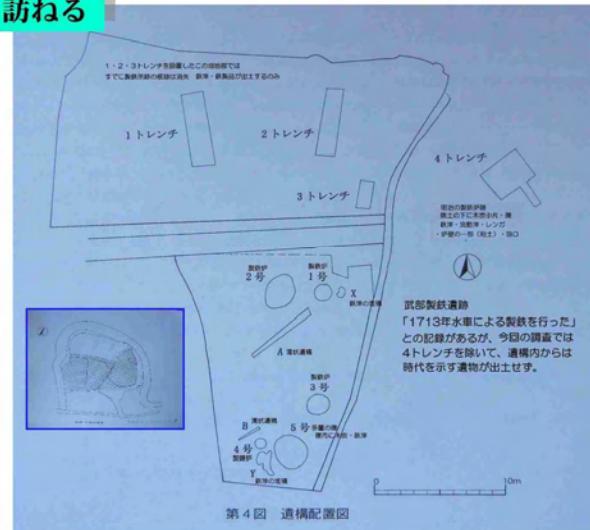
また、燃料の木炭は近くの山より供給され、原料の砂鉄は安城平山・住吉・石寺の浜で採取され、運ばれたと考えられている。

なお、種子島では縄文時代から人が住み、弥生時代には鐵工具による精工な貝殻加工品も出土し、古くから製鉄技術・鍛冶技術がはぐくまれてきたとの思いが強い。そして、種子島に鉄砲が伝来し、この種子島での鉄砲の国产化が成し遂げられたのには、この島の浜いたるところにある砂鉄の存在とそれを利用して 古くからこの島に高度な鉄技術・鍛冶技術があったからだと想いが強い。

しかし、この島のたら製鉄が古代まで溯源することを示す遺跡はなく、また、近代に至るまで製鉄炉の大型化もすすんでいない。

また、この島の砂鉄にはたら製鉄に不向きな高チタン系の砂鉄であり、島の人々の想いとは別に 現在のところ 古代まで製鉄技術が溯源るようには見えない

2013.4.16. 屋久島のたら浜・製鉄遺跡をたずねて Mutsu Nakasnihi



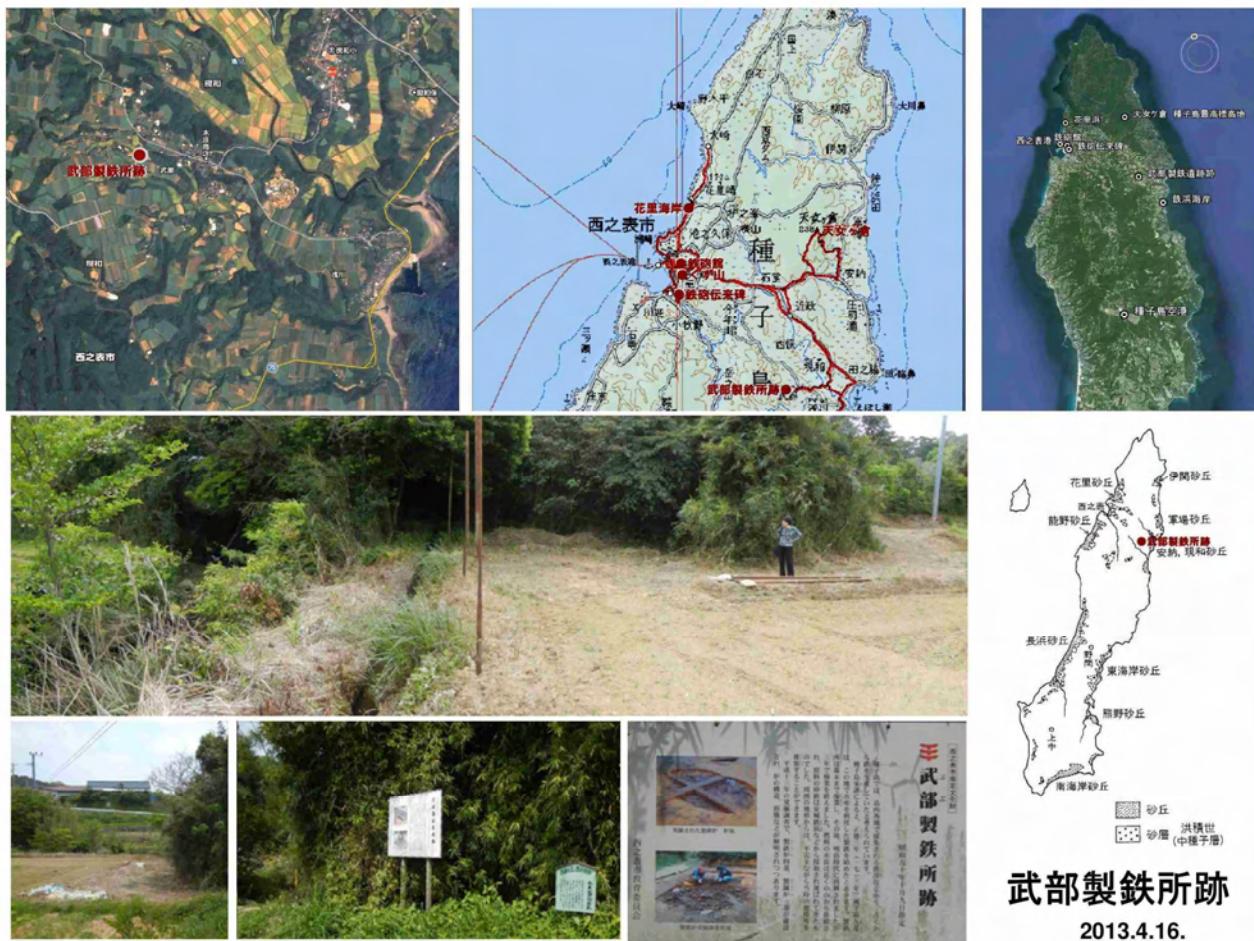
西之表市から東へ種子島を横断 市街地を抜けるとなだらかな起伏を持つ丘陵地が続く 2013.4.16.



島の中央「石堂」分岐に右へ武部製鉄所跡への標識があり、丘陵地の道を登るとまもなく「現和」の集落



現和武部の集落で 2013.4.16. 現和武部の集落は幾つも丘がつならるところ、標識はあるのですが、丘を幾つも巡るが製鉄所跡の場所がよく判らず。数度訊ねて製鉄所跡への降り口を教えてもらって ゆきつきました



武部製鉄所跡
2013.4.16.



武部製鉄所跡 左: 南側遺跡への入り口より 右: 遺跡内 北側から眺める

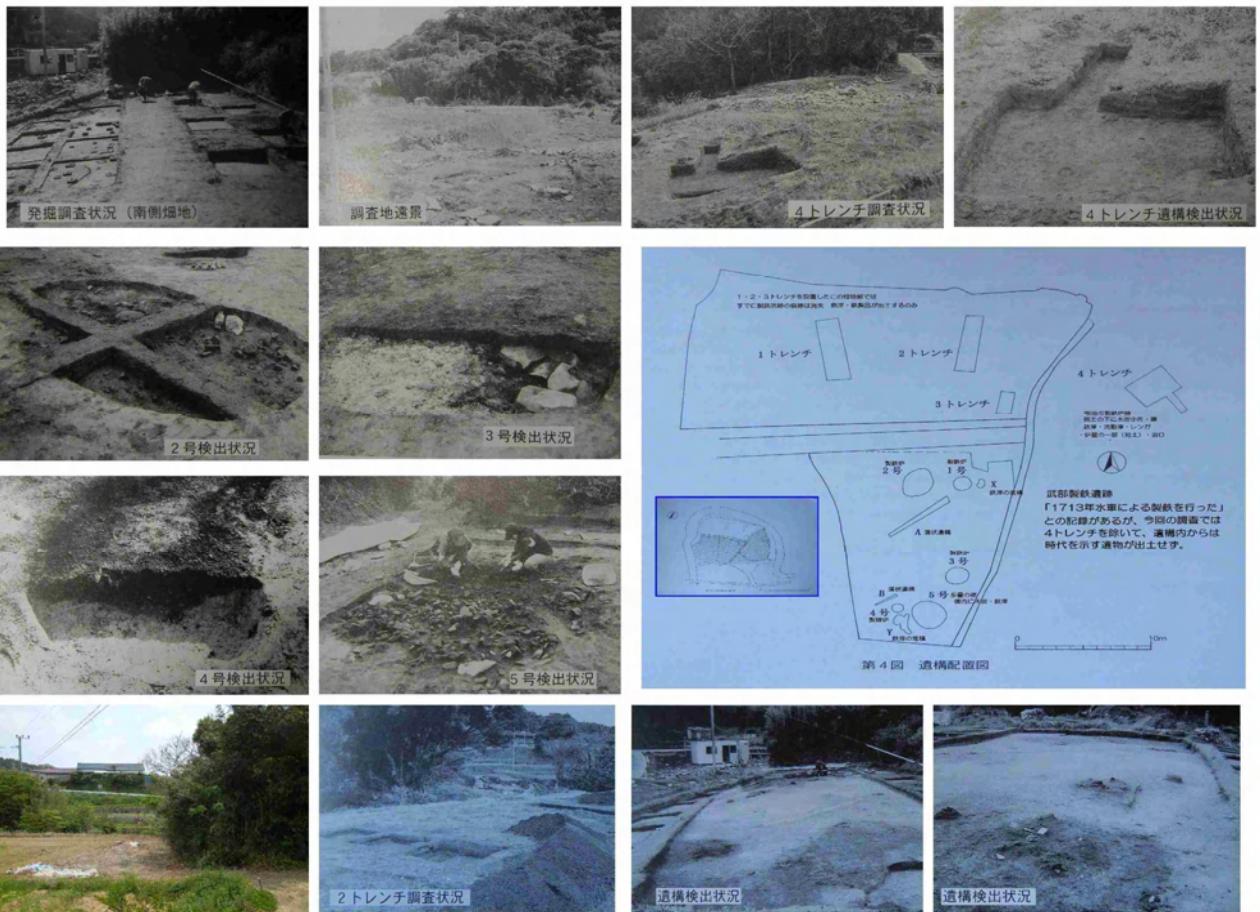


武部製鉄所跡 左: 遺跡の入り口 右: 遺跡外 東側より眺める

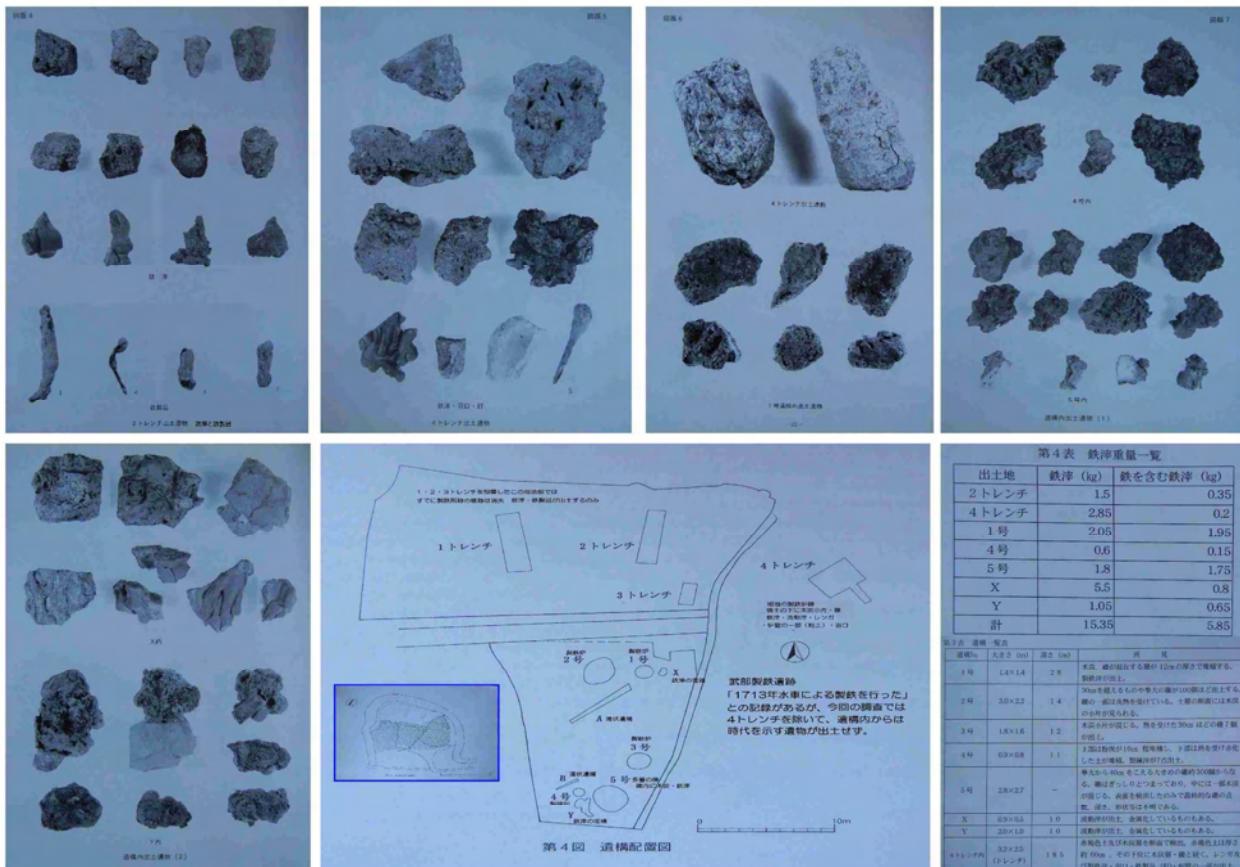


操業に水車を使ったとの案内板

武部製鉄所跡 遺跡外東側より 樹木の向こうに遺跡



武部製鉄所跡 出土遺構 西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(13)武部製鉄所跡 2004年3月より



第4表 鉄滓重量一覧

出土地	鉄滓 (kg)	鉄を含む鉄滓 (kg)
2トレンチ	1.5	0.35
4トレンチ	2.85	0.2
1号	2.05	1.95
4号	0.6	0.15
5号	1.8	1.75
X	5.5	0.8
Y	1.05	0.65
計	15.35	5.85

出土地	大きさ (m)	高さ (m)	状況
1号	1.4×1.4	2.8	木造、礎が残る壁の厚さ約12cmの厚さで残存する。 鉄滓を含むものや木炭塊が10kgほど出土する。
2号	3.0×2.2	1.4	鉄滓を含むものや木炭塊が10kgほど出土する。 壁の一部は瓦飾りで覆っている。土壌の表面には木炭の小片が散らばっている。
3号	1.8×1.6	1.2	木炭のみが残る。熱で溶けた30cmほどの土層が残る。
4号	0.9×0.8	1.1	土壌の表面に鉄滓が散在する。下部は熱で溶けた木炭のみが残る。
5号	2.8×2.7	—	木炭から30cmも入るものや鉄滓約300個が出土する。 礎はざっと1.1mごとに2つあり、中央は、礎の間に が狭い。表面を覆した木炭の量は鉄滓の量より多く、 壁、礎は、和式瓦飾りで覆っている。
X	0.9×0.5	1.0	土壌の表面に鉄滓が散在する。下部は熱で溶けた木炭のみが残る。
Y	2.0×1.0	1.0	土壌の表面に鉄滓が散在する。下部は熱で溶けた木炭のみが残る。
4トレンチ	3.2×2.0	約 60cm	その下に4号坑跡(鉄滓)と、レギュラーブロック群(2号坑跡)、1号坑跡(1号坑跡)と、中間の一部が残る。

武部製鉄所跡からの出土遺物 西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(13)武部製鉄所跡 2004年3月より

薩摩 知覧の石組みたらの系譜

武部製鉄所跡 4トレンチの製鉄炉跡

4号トレンチからは炉跡は見つからなかったが、赤褐色土及び木炭層を断面で検出。赤褐色土は厚さ約60cmその下位に木炭層・礫と続く。レンガ及び精鐵滓・羽口・鉄製品・炉壁の一部が出土。

完掘が行われていないので、全体像が見えないが、江戸期薩摩で独自展開された水車送風の石組みたら炉の系譜。

明治時代の大型炉跡と推定され、たら炉から洋式高炉への変遷の過渡にある炉と推定される。

薩摩半島で独自展開された石組みたら炉 以前このたら炉を見るため、知覧を訪れ、その時に戴いた資料にその系譜の炉が種子島にも記されていていたと記された。

それが武部製鉄所跡。

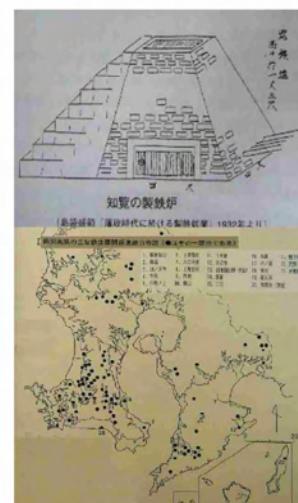
種子島も含め、薩摩の砂鉄は高チタン系の砂鉄で 通常のたら炉には使いにくい砂鉄。
(溶けるとねばい鐵滓をつくり流动性がわるく、炉にたなをつる。)

その砂鉄を使って 高温で溶解するため、石組みたらを独自に展開した薩摩のたら。この石組みたらの系譜が日本最初といわれる島津の洋式高炉建設へつながっていったと言われる。種子島で聞く「たらの島・たら製鉄技術への思い」のひとつであると思われる。

もっともこの炉は明治時代のものといわれ、また、それ以外の出土炉は時代不明で非常に小規模。これらの間の落差が大きく、きっとこの周辺にほかにも大規模な製鉄炉が出土する可能性があると思われる。



4トレンチ調査状況



【参考】「和鉄の道」 薩摩 知覧の石組み製鉄遺跡群を訪ねて 薩摩独自の石組炉 それが日本最初の薩摩洋式高炉を立ち上げた
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron14.pdf>

2. 種子島の砂鉄浜 東海岸の西之表市「鉄浜・かな浜」海岸



東海岸 湿川河口の丘にある風本神社 2013.4.16.

武部製鉄所跡から東へ丘を抜けてゆくと、湊川河口海が見え、東海岸沿いの道とTクロス。
傍らの丘に海を見下ろして立派な風本神社
種子島家が航海の安全を祈願した神社だと。
神社への石段にはうっすら砂鉄が舞って、この海岸が砂鉄浜だと。鉄浜海岸へは海岸の道を少し南へいったところである。



たたらの島 種子島の砂鉄の浜 西之表市 鉄浜・かな浜海岸 2013. 4. 16.



たたらの島 種子島の砂鉄の浜 西之表市 鉄浜・かな浜海岸 2013. 4. 16.



たたらの島 種子島の砂鉄の浜 西之表市 鉄浜・かな浜海岸 2013. 4. 16.



たたらの島 種子島の砂鉄の浜 西之表市 鉄浜・かな浜海岸 2013. 4. 16.



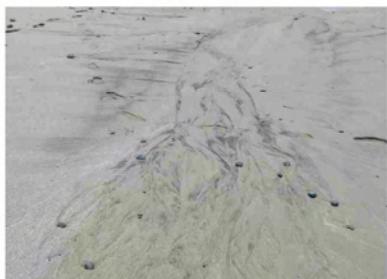
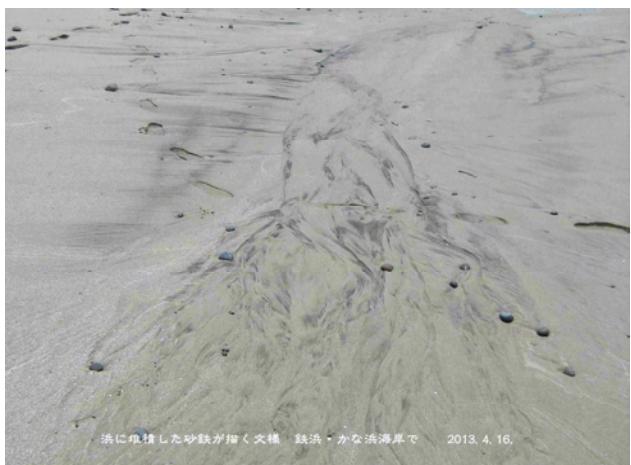
たたらの島 種子島の砂鉄の浜 西之表市 鉄浜・かな浜海岸 2013. 4. 16.



たたらの島 種子島の砂鉄の浜 西之表市 鉄浜・かな浜海岸 2013.4.16.



浜に堆積した砂鉄が描く文様 鉄浜・かな浜海岸で 2013.4.16.



浜に堆積した砂鉄が描く文様 種子島 鉄浜海岸で 2013.4.16.



島の平坦な台地にひろがる畠では ジャガイモの収穫の真っ只中でした 2013. 4. 16.



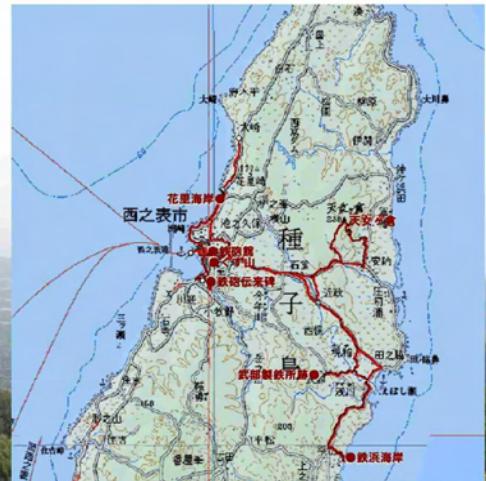
島の平坦な台地にひろがる畠では ジャガイモの収穫の真っ只中でした 2013. 4. 16.



3. 種子島の最標高282m 天女ヶ倉山展望所へ 種子島東海岸の眺望

東海岸の砂鉄の浜「鉄浜海岸」からもうひとつ西海岸の砂鉄浜「花里浜」を目指す。時間にちょっと余裕があるので、レンタカーを借りるときに教えてもらった種子島の最標高282m 天女ヶ倉山展望所へ立寄る。

道を北に取り、東海岸から現和を経由して島の中央まで戻り、山は低いのですが、山中を北にとり、天女ヶ倉山を目指す。天女ヶ倉への侵入路がわからず、少し迷いましたが、30分一寸で、天女ヶ倉の展望台。すこし、霞んでいますが、いま行って来た現和から鉄浜海岸など種子島の東海岸が一望。西側は山に阻まれて海岸部は見えませんでした。



平坦で細長く南北に横たわる島 種子島の最標高地 天女ヶ倉 238m の展望地に登る 2013.4.016.

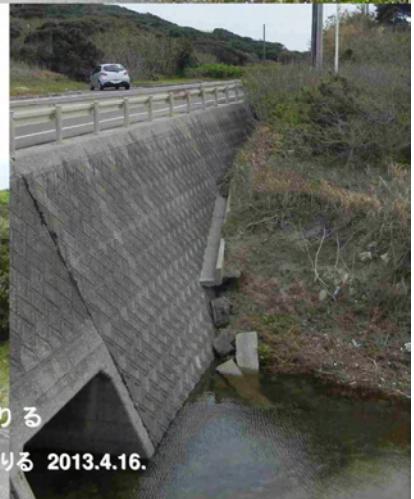
4. 西海岸の砂鉄浜 西之表市「花里浜」

西海岸へ下って 少し北へ海岸線を走るが、時間的に北の先端まで行けないので、引き返して、もと来た道 現和から、東へ山越え。
一旦西之表の市街地から北へ向かって 東海岸の砂鉄の浜 花里海岸へ向かう。



西之表市から東海岸沿いに北へ浜への降り口を探して大崎まで海岸沿いを走る。北の方はほとんど崖の上を走っていて、結局 浜へ最も近いのは美里町周辺と判り、降り口を探しながら引き返す。
花里崎を越えると広い砂浜が前方 遠く西之表の方まで続いている。砂鉄の浜 花里浜はここだと。
ところどころに砂鉄の黒い筋が見え、浜への降り口の道はないが、浜へ下りられそうだ。上西小学校への横道の所で小さな小川が浜へ注ぎ込む橋の横から浜へ降りられそうで、車を左に寄せて止めて浜へ下りる。

西海岸の砂鉄浜 西之表市「花里浜」







東海岸 砂鉄浜 西之表市 花里浜 砂鉄の模様 2013. 4. 16.



東海岸 砂鉄浜 西之表市 花里浜 2013. 4. 16. 上:南側 下:北側

5. 西之表市街地に戻って「和鉄の道」関連地を訪れる 2013.4.16.

1. 西之表市城「くず山」を訪ねる
2. 若狭公園 鉄砲伝来碑
3. 鉄砲館

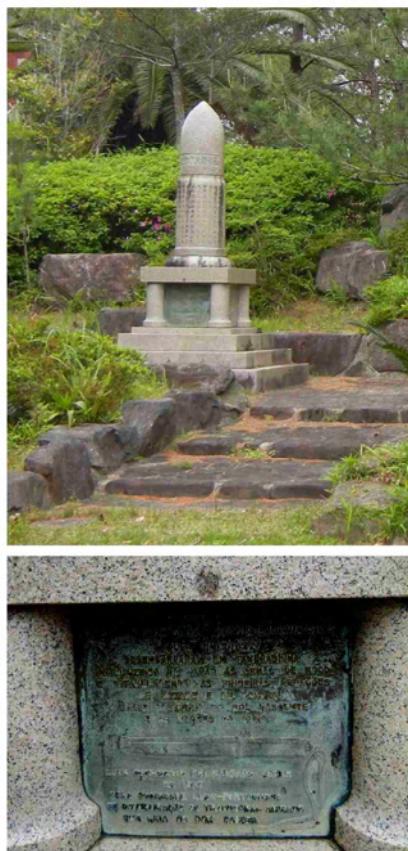


西之表港の甲女川河口の北岸に沿う西之表市城地区一帯を「くず山」といい、多くの鉄滓が採取できたという。

この周辺に製鉄所や鍛冶屋があったと伝えられている



西之表市若狭公園にある鉄砲伝来の碑



鉄砲伝来の功徳

時に西暦一千五百四十三年、天文十二年八月二十五日、種子島の南端・島前・島之浜に商船漂着。船中三人のボルトガル商人あり。島主種子島時充公（十六歳）三人所持するところの火薬統二丁を二十両で買い求め、家来刀匠八板金衛定らに火薬統製作を命ず。螺子技術解説し、娘若狭をボルトガル人に嫁させ、その技法を傳へす。臥薪嘗胆の末、遂に国産火薬統の完成をみる。わが國日本の近世化は、この鉄砲伝来により急速にはやまる。



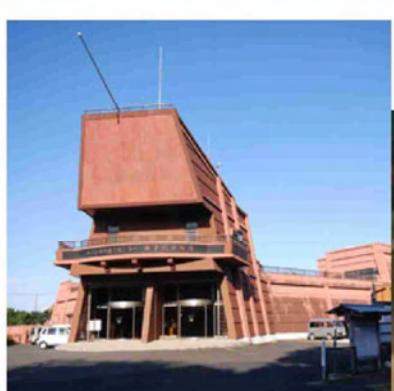
日本・ポルトガル友好
記念碑 (原文翻訳)
1940年日本帝国建国
2600年ポルトガル建国
800年を記念してポルトガル
日本協会本碑を建立する。

日本・ポルトガル親交記念碑（原文翻訳）
1543年様子島に上陸して、
日本に火薬を導入し、西欧と
しては日本帝国と最初に
友好通商関係を開拓した
ためポルトガル人を記念して
本碑を建立する。
1927年両国の伝統ある友好
関係を記念するため
ポルトガル・日本協会
が建立する。

南端西之村の小浦で、大船が姿を現した。船には、百人あまりの乗客で、その中にはボルトガルの商人もいた。余なの東谷へ、二十七日島主の住む赤浦(西之表港)に泊まつた。ボルトガル人が上陸したとき、手に鉄の筒を持った。彼らは、船での運びで火を放つて船を沈めようとしたのである。落雷のように導かれて、船は沈没した。その威力に感心した島主・猪子島時免は、これを機に火薬を家臣屋久・小次郎に譲り、火薬を販売の八板・金兵衛等に任せた。鉄砲は、冬になって、その形は伝来のものと寸分違わないものが出来た。どうして最も巻く尾末(ねの)の切り方がわからなかつた。翌年の春、「南蛮船」が再び東洋海、対馬海に来港したが、その中に鐵砲の製作に心得のある鐵匠が東渡した。そこで、金兵衛は彼に尾末の作り方を教わり、鐵砲を完成させることができた。間もなく鐵砲は日本各地に普及し、威力を武器として被國武器の目法する所となつた。だが、いかでかも島田信玄がこの鐵砲をうまく就國武術に用いて、徳川義親を一蹴して、終止符を打つたのである。これが近代國家への道歩みを終るることとなるのである。

鐵砲伝來由緒

西之表市若狭公園にある鉄砲伝来の碑 と 西之表港にある八板金兵衛清定像 2013.4.16.



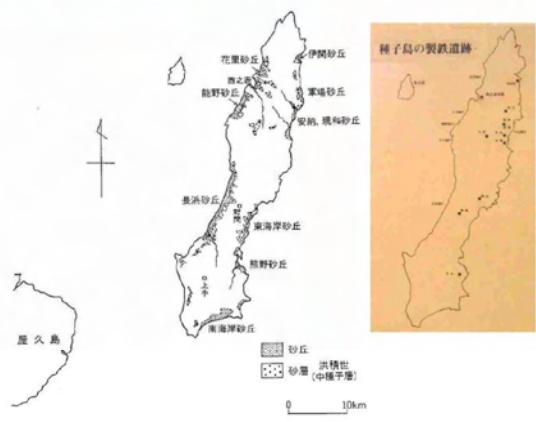
種子島 西之表市 鉄砲館(種子島総合開発センタ)展示より



砂 鉄



鉄 淬



3時丁度 もうタイムリミット。 鉄砲館から急いで港のレンタカー返却場所へ
車を無事返却して港へ向かう
やっぱり 時間一杯 ゆっくりと昼食は取れませんでしたが、
砂鉄浜や武部製鉄所跡など目的とした所は一応全部行け、本当にラッキー。
レンタカー借りねば、こんなにスムーズに行かなかつたろう。

ジェットフェリーの乗り場ではもう乗船が始まっている。
土産買う暇もなし そのまま 3時20分発種子島行のジェットフェリーに乗り込み帰途へ
種子島も実り多き一日 これで、訪れた砂鉄の浜南限が種子島まで延びました。また、今後いつか 種子島で製鉄遺跡が発見され、島の人人が思い描く正真正銘の「たたらの島」になることを願いながら 島をあとにする。

2013.4.16. ジェット船に乗り込んでほっとして BY Mutsu Nakanishi



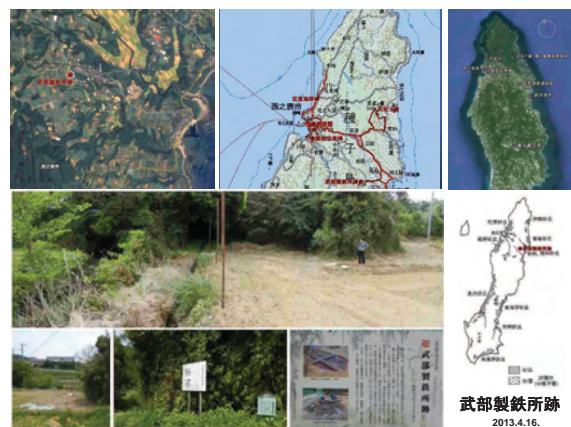
《おまけ》 鹿児島市の路面電車 2013.4.16.

新幹線が開通して 鹿児島の変貌は著しい。本当にビックリです。
また、いろんな所を走っていた路面電車が鹿児島では走っていて面白いと聞いていましたが、
港から鹿児島中央駅へ行く間にもいろんな路面電車が見られました。

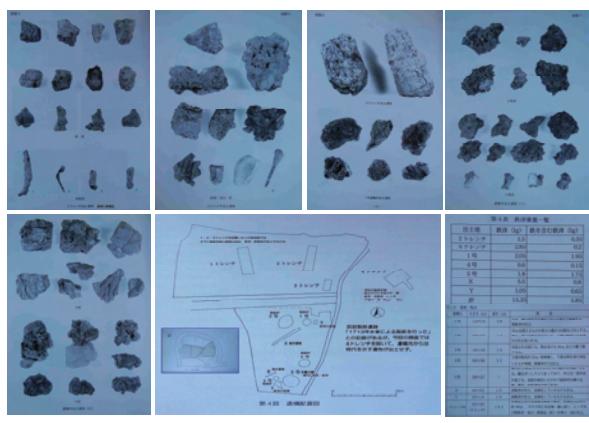
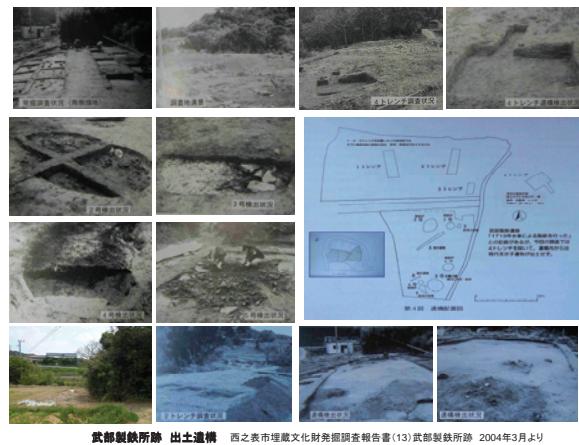




現和武部の集落で 2013.4.16. 現在武部の集落は幾つも丘がつながるところ、裸地はあるのですが、丘を幾つも遮るが製鉄所跡の場所がよく判らず。数度訊ねて製鉄所跡への降り口を教えてもらって ゆききました。



武部製鉄所跡
2013.4.16.



武部製鉄所跡からの出土遺物 西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(13)武部製鉄所跡 2004年3月より



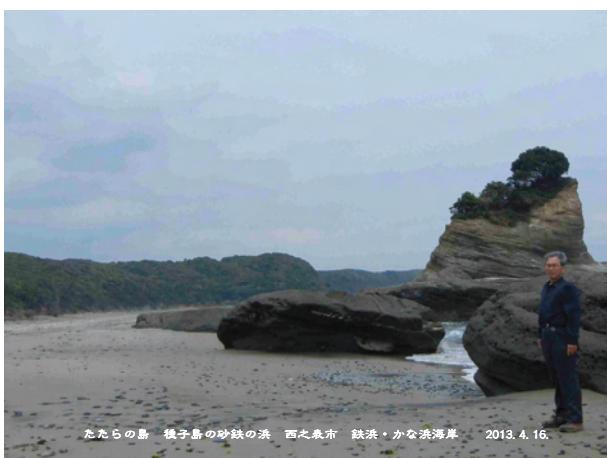
【参考】「和鉄の道」 鹿児島知覧の石組み製鐵道跡を訪ねて
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/Sirion14.pdf>

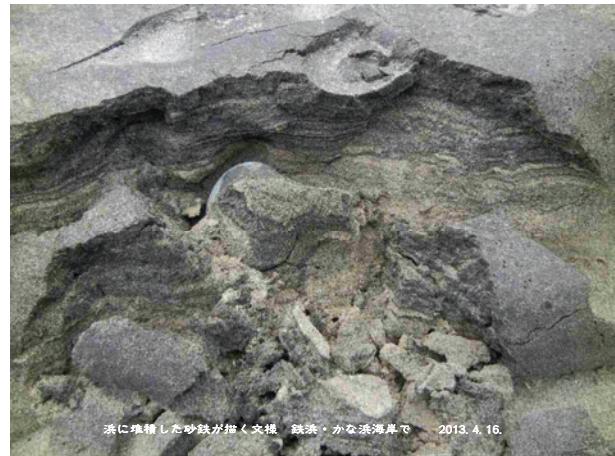
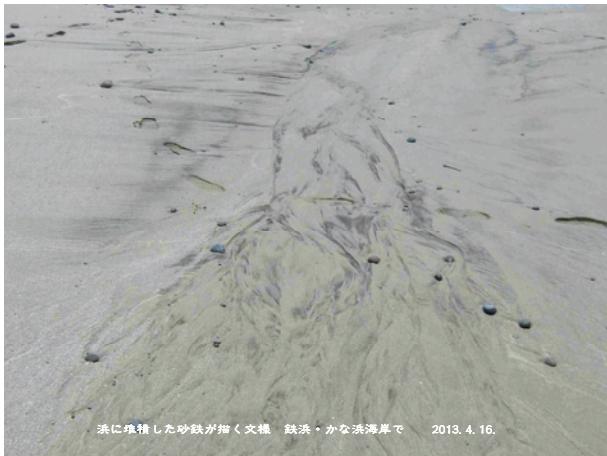


たたらの島 種子島の砂鉄浜 東海岸の西之表市「鉄浜・かな浜」海岸 2013.4.16.



東海岸 漢川河口のにある風木神社
2013.4.16.
武部製鉄所跡から 東へ丘を抜けゆくと、漢川河口が見え、東海岸沿いの道とクロス。
傍らの丘に海を見下ろして立派な風木神社。
種子島者が航海上の安全を祈願した神社だ。
神社への石段にはうすら砂鉄が舞って、この海岸が砂鉄海岸と、鉄浜海岸へは海岸の道を少し南へいったところである。





3. 種子島の最標高282m 天女ヶ倉山展望所へ 種子島東海岸の眺望

東海岸の砂鉄の浜「鉄浜海岸」からもうひとつ西海岸の砂鉄浜「花里浜」を目指す。時間にちょっと余裕があるので、レクタカーを借りるときに教えてもらった種子島の最標高282m 天女ヶ倉山展望所へ立寄る。

道を北に取り、東海岸から現和を経由して島の中央まで戻り、山は低いのですが、山中を北に上り、天女ヶ倉山を目指す。天女ヶ倉への侵入路がわからず、少し迷いましたが、30分一寸で、天女ヶ倉の展望台。すこし、震んでいますが、いま行って来た現和から鉄浜海岸など種子島の東海岸が一望。西側は山に阻まれて海岸部は見えませんでした。





平原で縦長南北に横たわる島 種子島の最高峰 天ヶ倉 238mの展望地に登る 2013.4.016.



4. 西海岸の砂鉄浜 西之表市「花里浜」

西海岸へ下って 少し北へ海岸線を走るが、時間的に北の先端まで行けないので、引き返して、もと来た道、現和から、東へ山越え。
一旦西之表の市街地から北へ向かって 東海岸の砂鉄の浜 花里海岸へ向かう。



西之表市から東海岸沿いに北へ浜への降り口を探して大崎まで海岸沿いを走る。北の方はほとんど崖の上を走っていて、結局 浜へ最も近いのは季里町南辺と判り、降り口を探しながら引き返す。
花里崎を越えると広い砂浜が前方、遠く西之表の方まで続いている。砂鉄の浜 花里浜はここだと。
ところどころに砂鉄の黒い砂が見え、浜への降り口の道はないが、浜へ下りそうだ。 上西小学校への横道の所で小さな川が浜へ注ぎ込む様から浜へ降りられそうで、車を左にさせて止めて浜へ下りる。



東海岸 砂鉄浜 花里浜。かり浜へ下りる
大花里 西へ上西小学校への入口のところで 車を止め浜へ下りる 2013.4.16.



東海岸 砂鉄浜 花里浜 小川が流れ込む降り口周辺 2013.4.16.



東海岸 砂鉄浜 西之表市 花里浜 2013.4.16. 上;南側 下;北側



東海岸 砂鉄浜 西之表市 花里浜 2013.4.16.



東海岸 砂鉄浜 西之表市 花里浜 2013.4.16.



東海岸 砂鉄浜 西之表市 花里浜 砂鉄の模様 2013. 4. 16.



東海岸 砂鉄浜 西之表市 花里浜 浜の小川に描く砂鉄の模様 2013. 4. 16.



東海岸 砂鉄浜 西之表市 花里浜 2013. 4. 16.



東海岸 砂鉄浜 西之表市 花里浜 砂鉄の模様 2013. 4. 16.



5. 西之表市街地に戻って「和鉄の道」関連地を訪れる 2013.4.16.

1. 西之表市城ぐず山を訪ねる 2. 若狭公園 鉄砲伝来跡 3. 鉄砲館



西之表市の甲子川河口の北岸に沿う西之表市城地区一帯を「くず山」といい、多くの鉄滓が採取できたといふ。この辺りに製鉄所や鍛冶屋があったと伝えられている。



西之表市若狭公園にある鉄砲伝来の碑



西之表市若狭公園にある鉄砲伝来の碑 と 西之表市にある八幡金兵衛清定像 2013.4.16.



《おまけ》 鹿児島市の路面電車 2013.4.16.

新幹線が開通して 鹿児島の変貌は著しい。本当にビックリです。
また、いろんな所を走っていた路面電車が鹿児島では走っていて面白いと聞いていましたが、
港から鹿児島中央駅へ行く間にいろいろな路面電車が見られました。

